

はがき（葉書）の語源⇒郵便局のシンボルツリー

# タラヨウ

モチノキ科

モチノキ属

学名: *Ilex latifolia*  
(イレクス・ラティフォリア)

漢字名: 多羅葉 英名: luster-leaf holly  
別名: ハガキノキ(葉書の木)、郵便局の木

日本の本州中部以西、四国、九州に自生する、高さ 20mほどになる常緑高木。雌雄異株。

樹皮は灰黒色で浅く裂ける。葉は互生し、長さ 10~18cm の長楕円形で厚く、表面は光沢がある。硬くて分厚い葉の縁にはとがった鋸歯がある。

葉面の傷は黒変するので文字が書ける葉として知られる。葉の裏に尖ったものなどで字を書くと、やがて黒く浮き上がり、何年も消えない。リンゴの皮をむいてそのままにしておくと茶色になるのと同じ原理で、「褐変反応」といい、ポリフェノール(タンニン)の酸化によるもの。

仏教の経文を記した多羅樹(タリポットヤシ)の葉になぞらえて和名がついた。

「葉書の木」などとも呼ばれ、1997年に郵便局のシンボルツリーとなっている。



雌株(雌花)



雄株(雄花)



4月下旬